

日本大学国際関係学部 校友会会報

第54号

令和5年11月30日発行



「最後の三年間」



横山 雅人

国際関係学部校友会会長

国際関係学部校友会の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は国際関係学部校友会の活動にご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

私事ですが、今年一月に会社を定年退職し（六十歳）、縁があつて四月の統一地方選挙に出馬しました。初めて経験することばかりで戸惑いましたが、校友の皆様は助けられました。まさに激動の半年でした。

激動と言えば、本年六月五日に東京・市ヶ谷の日本大学会館で開催された校友会臨時総会で空席だった日本大学校友会の新任会長にインホールディングス社長の 大谷喜一氏（七十一歳、一九七五年理工・薬〔現薬学部〕卒）が推薦、承認されました。任期は三年（令和五年六月六日

から令和八年定期役員総会開催日まで）です。推薦理由はこれまでの経営手腕や社内でのダイバーシティ推進などを挙げ「今後の校友会改革の推進やさらなる発展への貢献が期待される」とのこと。大谷新会長は総会挨拶で「校友会は混乱の状況にあるが、透明性を高くすれば素晴らしい組織になる。頑張つてやっつけていきたい」と述べました。大谷新会長には風通しの良い校友会を築いていただくことを期待しております。

国際関係学部校友会は本年七月一日にみしまプラザホテルで総会・懇親会を開催しました。懇親会には酒井健夫日本大学学長をはじめ、国際関係学部渡邊武一郎学部長、各学部校友会会長他多くの方にご列席賜りました。新型コロナウイルス感染症の感

染症法上の位置付けが五類感染症になったとはいえ、今年度の総会・懇親会を中止あるいは総会のみという学部が多かったの

で、開催を悩みましたが、四年ぶりの校友との再会に開催してよかつたと思いました。来年はもっと多くの校友に会えたらうれい

しいです。総会では任期満了に伴い、来年四月からの学部校友会長の継続をご承認いただきました。四期目となります。これまでの集大成として頑張つてまいりますので引き続きのご支

援ご協力をお願い申し上げます。この一期三年間は後任を育てバトンタッチするための期間とご挨拶で申し上げます。全力で取り組まなければならない案件

であります。現状は同じ顔ぶれの数名で事業をこなしている状況です。卒業生が働き盛りの年齢で、三島になかなか来れな

かつたり、校友会の認知度が低いことも原因であります。できることなら若い世代にバトンタッチしたいと考えています。校友の皆様、お力をお貸しください。三島キャンパスは既存の管理

棟及び図書館の老朽化が著しく、耐震性能が低いことから、学生、教職員等の安全性を確保するため、図書館兼管理等新築工事を

実施することになっておりますが、いよいよ工事が始まりました。四階建ての建物です。二〇二七年三月三十一日完成予定

です。慣れ親しんだ建物が無くなっていくのは寂しいですが、新しく生まれ変わるキャンパスが楽しみでもあります。ブック

ツリーを配置した印象的なエントランスで、敷地の玄関口であるので、学生がいつでも気軽に立ち寄れる、人や本との新たな

交流が生まれる場所となる特徴、コンセプトのようです。まだ図書館、管理棟はそのままで。機会を作つて最後の姿を見に来てください。そして新築後の姿も。

最後に一言、国際関係学部は六月に新しく事務局長になった

齋藤聡さんが国際関係学部卒業、渡邊学部長も国際関係学部卒業、職員、職員のトップが卒業生という恵まれた環境になっていま

す。学部校友会も全力で応援してまいります。結びに皆様方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

.....

「ご挨拶」



国際関係学部学部長

渡邊 武一郎

キャンパスから見上げる富士山も雪化粧を施される日々が多くなる季節を迎えましたが、国

際関係学部校友会の皆様にかかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、日本

大大学国際関係学部、短期大学の研究・教育活動に対し、ご支援・ご助力賜りまして、誠に有難うございます。

今年度は国際関係学部にも五九三名、短期大学部ビジネス教養学科に五十八名、食物栄養学科に七十一名、専攻科食物栄養専攻に十八名、大学院国際関係研究科には十一名の新入生を迎える事ができました。これと同じキャンパスにある付属三島高等学校の五六六名、三島中学校の五十名を加えると三島キャンパス全体で一、三六七名の新入生を迎えることが出来ました。全ての中学生、高校生、大学生、大学院生を合わせると約五、〇〇〇人となり、静岡県下では最大規模のキャンパスとなります。

国際関係学部では今年度から新たに、比較文学の芳賀理彦先生、英語教育法の細井健先生、情報学の吉田典弘先生、文学の笹生美貴子先生をお迎えしました。学際的に幅広く学べる国際関係学部として、これまで以上に学生の皆さんの学びを支えていきます。学問分野に偏らず様々な分野の研究をされている

先生方がいるのが三島キャンパスの特徴です。学生の皆さんには知的好奇心を追求して欲しいと思います。

この春からは新型コロナウイルス感染症で中断していた長期、中期、短期等の海外留学も再開し、多くの学生達が海外に旅立ち始めています。また、六月にはニューヨーク州立ストーンブルック大学から二十名の学生が三島キャンパスを訪れ、約一ヶ月にわたり日本語、日本文化を学びました。これからも国際関係学部として、益々国際交流を活性化させていきます。

そして、十月二十八日、二十九日には第七十三回富桜祭が開催されます。一昨年度まで新型コロナウイルス感染症により中止となっていました。昨年度は学園祭の経験の無い実行委員会の学生たちを中心に手探り状態で再開に漕ぎつけました。そして今年度は、これまでの伝統の復活と新たな創造に向けて、更なる一歩を踏み出せたと思えます。

店、そして様々な企画・展示を通して、日頃学生が三島キャンパスで学び・考え・行動してきたことの成果を十分に発揮できる機会となっています。

今後とも国際関係学部校友会

「ご挨拶」



国際関係学部事務局長

齊藤 聡

の皆様方に於かれましては、国際関係学部・短期大学部（三島校舎）の研究・教育活動にご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

日本大学国際関係学部校友会の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと心より喜び申し上げます。また、校友会の皆様方には私ども国際関係学部・短期大学部（三島校舎）に対する平素のご支援・ご協力に深く感謝申し上げます。厚く御礼申し上げます。

私は国際関係学部の一期生で、最初の着任学部が国際関係学部でありました。その後法人本部、都内の学部、付属高等学校を回

ており、十月中に文部科学省への報告を目指し、原因究明とともに今後二度とこのようなことが起こらないよう再発防止に向けた対策を講じてまいります。

次にキャンパスにおいての日常生活ですが、新型コロナウイルスも取扱いが「五類感染症」となり、本年度はコロナ以前に戻り交換留学生の受け入れ、海外留学・語学研修の再開等国際関係学部の本来の活動が再び動き出したことは大きな喜びであります。学生たちには夢と希望と将来への目標に向かって大いに羽ばたいてくれることを期待しています。

施設面におきましては国際関係学部の重要事業整備計画として進めておりました「国際関係学部図書館兼管理棟新築工事」がいよいよ実施段階に入り令和五年九月よりインフラ工事が始まり、令和七年年度末までに完成し令和八年四月には利用開始できる予定です。

計画コンセプトは「新たな情報や活動と出会いながら、自由

に過ごせる学生みんなの居場所」。従前はキャンパスの一番奥にあった図書館を新しく知と賑わいのランドマークとして正門を入ってすぐのところに建設いたします。その外観は正面が

全面ガラス張りの「ブツクツリー」がキャンパスを訪れる人を迎え入れます。新たな国際関係学部のシンボルとなるこの施設を先ずは是非国際関係学部のホームページでご覧ください。

さて、大学を取り巻く環境は年々厳しくなってきました。令和五年度大学の入学定員充足状況は三大都市圏を除き全国平均で定員確保できていない大学の割合が五割を超え、短大は九割に上ります。そのような中で国際関係学部・短期大学部（三島校舎）においても学生数確保のために入試制度改革、キャンパスライフ充実のための様々な施策を講ずべく検討を重ねています。

この三島のキャンパスにおいての第一は学生ファーストであり、大きな志をもって入学して

きた学生たちを四年間・二年間充実したキャンパスライフを提供し、彼らの望む社会への扉を開くサポートをしていくものと考えています。

国際関係学部・短期大学（三島校舎）はこれからも校友の皆様をはじめ社会から信頼を得られるような教育機関を目指し、

「硬膜下血腫」



山田 浩子

国際関係学部校友会副会長

教職員一丸となって進んできます。校友会の皆様には今後とも一層のご理解とお力添えを賜りますようよろしくお願いいたします。末筆になりましたが、国際関係学部校友会の益々のご発展と校友の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

卒業してから半世紀以上が過ぎてしまいました。あっけなく過ぎてしまったと思いましたが、楽しく有意義な人生を送っています。体だけは元気で丈夫だと自信を持っていました。ところが昨年夏の始まりの頃、右のホッペを強く打つような転び方をしてしまいました。やっばり年には敵わないなあと思いい仲良

う事もなく帰日も飛行機の圧がかかる事ばかりでした。すぐに医者のお世話に行きました。CTを撮ったら右の脳の方に血のかたまりが見えました。これは教科書通りだなあと言われ右脳が出血しているの左足が自由になつたとの事でした。このまますぐに脳外科に行くように

言われました。そのまま直行しました。CTを再び撮り、その場で今日の四時ネと言われ「エッ！今日オペやるの」「うん、そうダヨ」着替えを取りに帰ると言う「残念でした。全ての着替えはここにあるから帰らなくてイイヨ」と言われ、お昼を食べに行ってくると言う「残念でした。食べなくてイイヨ」。何と余りにも心の準備もなく突然の出来事でびっくりです。オペの前の説明で、うちは二泊三日で帰るから、看護士が足りないから集中治療室がないから看護士詰所に一晩いてもらうからと言う事でした。右頭部の生え際を七・八センチほどカミソリで剃られました。オペ室に歩いて

て行き、びっくり局所麻酔でした。ズーッと看護士としゃべってました。オレ子供に英会話習わせたいんだけど…私の娘がアメリカに住んでる事や、どうすれば良いかなど話してました。その間もオペは続いています。なんかゴリゴリして痛いんだけどと言うと「頭蓋骨に穴を開けてるから痛くはないヨ！」間もなく、どれ位出血してたか見せてあげて。百二十CCだね、大した事はないよと言われ詰所で一晩、翌朝早くに部屋に帰ってから点滴をもちながら廊下を行ったり来たりのリハビリです。二泊目の朝、もう帰ってもいいからと許可が出ました。頭蓋骨に穴を開けて、中から血液を取り出して二泊で帰るとは現代の医学のすばらしさを痛感しました。一ヶ月おきに三度CTを撮り、全てが終了しました。年をとると、よく転ぶそうです。皆さまも気をつけて楽しく年をとりましょう。

「学び舎に思う」



国際関係学部校友会常任幹事

田代 稔

校友会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は、昭和五〇年（一九七五年）短期大学部商経科の第二期生として入学しました。日本大学三島高等学校時代から勝手知ったキャンパスでしたので、自宅から二年間通うことができたことで、何ら不自由なく過ごすことができました。これも先生方をはじめ学校関係者の皆様のご指導のおかげであり、また良き学友に恵まれたことであると感謝しております。

現在のキャンパスには、私が学んだ一号館から八号館が取り壊され、国際関係学部の未来に向けた新たな施設・設備のもと、

からは毎日のように遅くまで合わせ準備をしていくと、目的に向かつてお互いの気持ちが一ひつになりました。

そして、十月三十一日の前夜祭から始まり、現在は実施しておりませんが、仮装パレードがありまして、学園をスタートして三島大通り商店街を通り、学園まで戻るコースでしたが、沿道は多くの市民や商店街の方々からの声援で活気に溢れ、歓迎されていたことを思い出します。また、期間中には多くの市民の皆さんが来場し大変賑わいました。本当に地元の皆さんに愛され、親しみが湧いてきました。

今年も大学祭である「富桜祭」を迎える時期となりました。私も2年の時に大学祭の実行委員会役員として、第二六回大学祭に参加できたことは、今でもこの時期になると思い出します。夏休みに入る前に大卒を決め、夏休みが明けると本格的に各部署活動などとの調整に動き、十月

木村さんは戦時中、熊本から霞ヶ浦海軍航空隊員養成の子科練に入隊しましたが、終戦によりその後三島予科二期生として入学、法学部に進み応援部に在籍し、箱根駅伝の応援等に大変力が入っていたことをよく聞かされたものです。三島予科二期生には、元三島市長奥田吉郎さん（故人）がおりました。大

私も誘っていただき『うなぎ水泉園』（廃業）の二階にお邪魔しました。とても母校愛の強い方ばかりで、いつも日大のことを気に掛けていました。特に、スポーツ部がもつと活躍してほしいなど言っていました。

そして、毎年校友会総会でお会いしていた木村幸夫さんが去る九月十八日に九十五歳をもってご逝去されたことは、私にとつて何とも言えない寂しさに襲われ、まだ木村さんが「オッサオッサ田代君元氣 オッサ頑張つてよ」と、手を握る声が

聞こえる気がします。それだけ私にとっては大きな存在の大先輩でした。私も三島商工会議所退職後の現在は、地元町議会議員として、職場での経験を活かし、未来へ繋ぐ『誰もが住みたくなる』まちづくりを目指して頑張っているところです。

校友会のこれからについても、大学との事業連携を図りながら、役員以外の校友の皆様はどうしたら参加して頂けるかを、役員の皆様と知恵を絞って提案できればと思っております。

結びに、国際関係学部の更なるご発展と校友会ならびに校友の皆様のご健勝ご活躍を心よりご祈念申し上げます。私の寄稿とさせていただきます。



「新型コロナウイルスに おける体験談」



国際関係学部・短大三島校友会
山形県支部 幹事

鈴木 敦

日本大学国際関係学部校友会の皆様におかれましては、ますますご清祥のことと心よりお慶び申しあげます。また山形県支部の活動に対し深いご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。はじめまして、鈴木敦と申します。どうぞよろしくお願いたします。

早いもので、大学を卒業してから十年以上が経ちます。目標や夢を持って大学に通っていましたが夢破れ、紆余曲折あり今は介護の仕事をしております。思い描いた三十代とはほど遠いですが、毎日仕事に邁進しております。今回は、私の仕事について説明させていただきます。私は介護施設で働いております。今現在、世の中的にはマスクを

外したり、大勢が集まったりとコロナに対する制限が解除もしくは緩和され、以前の生活に戻りつつある世の中です。しかし、インフルエンザと同じ五類に移行したとはいえ、施設では、コロナ禍になってからの生活（感染対策の徹底を継続した状態）を引き続き行っております。施設でコロナが発生すること（クラスターが起ること）は、家庭や職場、学校でコロナが発生するよりも、逃げ場がなく、極端な話、地獄でしかありません。これらのことを踏まえ私の仕事での出来事、体験談について一つ紹介します。二〇二〇年以降コロナ禍に陥り、私の施設では職員、利用者共に感染対策の徹底に努めていました。対策の徹

底に努めることで暫くは平穏な日々を送っていました。しかし、二〇二一年春、一人の発熱をきっかけに、複数の利用者が熱を出し、検査の結果コロナ陽性と診断されてしまいました。俗に言うクラスターでした。ここから地獄の日々が始まりました。利用者にとって辛い状況でありましたが、それ以上に職員にとっては苦痛の連続でした。コロナが発生してしまつた以上、これ以上、増やさないことが一番でした。きれいなエリアと危険なエリアをわけ、感染拡大防止に努めました。とりわけ、一番大変なのが防護服の着用でした。自分の身を守ること及び感染拡大防止のため毎日、使用していました。精神的、肉体的にダメージが大きいのしかかりました。呼吸が苦しく、暑いため、体力を奪われ、パフォーマンスの低下に繋がるなど最悪なことばかりでした。見えない敵（コロナ）を相手にしているため、不安と恐怖でいっぱいであると同時にゴールのない闘いでもあ

り、辛いものでした。もう二度と体験したくないという思いと、コロナの脅威を改めて思い知つた瞬間でもありました。しっかりとした連携、協力があつたからこそ、結果的には被害を最小限に抑えることができました。

以前に比べ日常生活を取り戻せた部分も多いですが、コロナの脅威がなくなつたわけではありません。皆様も体調管理には十分お気を付けお過ごしください。

校友会優秀賞受賞者

「感謝」



国際教養学科二年

市村 杏

この度は、校友会優秀賞を頂くことができ、光栄に思います。

私は六歳からゴルフを始め、勉強との両立に苦しみながらも文武両道を基本に取り組んできました。今まで一緒にゴルフをしてきた仲間たちのほとんどが大学進学をせずにゴルフだけの道を選びました。私はとても悩みましたが社会に出る前に必要なことを学びたいと思い日本大学進学を選びました。結果、まだ二年生ですが進学を選んでよかったと思っております。とかく個人競技は自己中心的になり、周りが見えなくなりがちです。しかし、私には同じ志を持つ仲

間たちがいます。本当にありがたいことです。ゴルフ部で得た経験の数々は私の人生においてかけがえのない財産となっております。

大学入学後の団体戦では、二〇二二年度関東女子春季対抗戦優勝、第四十五回全国女子大学ゴルフ対抗戦二位、第四十六回全国女子大学ゴルフ対抗戦三位などの成績を、個人戦では二〇二二年度関東女子大学ゴルフ選手権優勝、第四十回フジサンケイレディスクラシックベストアマチュア賞、二〇二三NEC軽井沢七十二ゴルフトーナメントベストアマチュア賞などの成績を納めることができました。これもひとえに、いつも温かく時に厳しく指導してくださる監督、コーチ、優しく見守ってくださる先輩方、向上心を持ってゴルフに向き合い刺激をくれる後輩たち、そして誰よりも頼もしく仲間思いの同期たちのおかげです。心から感謝しています。この先には団体戦の全国大会である、常陸宮杯が控えています。

日本大学ゴルフ部に入部して経験した、試合の勝利と敗北からの学びを活かし、優勝を目指します。

最後に、この賞をいただけただけに改めて感謝するとともに、学生生活残り二年半、同じ志を持つ日本大学ゴルフ部の仲間と共に成長し、一日一日を大切に過ごしていきたいと思えます。

各団体代表者

「文化会」



国際教養学科四年

中澤 明 依

私が日本大学国際関係学部に入部し、演劇部に所属して三年目を迎えました。入学したばかりの頃は、新型コロナウイルスにより思うように部活動を

行うことができませんでした。しかし、昨年初めての富桜祭を経験し、改めて仲間とともに支え合いながら一つの作品を作っていく楽しさを感じるようになりました。

今年からは通常に戻り、四月には新入生を歓迎するための「新歓講演」を開催することができ、新入部員も入って来てくれたことにより、部に新しい風が吹いています。また、十月には「富桜祭公演」も決定しており、夏休みを使って稽古を始めていくところです。未経験者が多い中で、経験者である自分が「演劇は楽しい」と部員に感じてもらえるように試行錯誤しながら運営しています。

新型コロナウイルスが蔓延してから入学した私にとって、この「通常通り」は、初めてのことばかりで、分からないことがたくさんありました。まず、部員を増やさなければならぬのに「部活に入ろう」と思っている学生が減っていることや、そもそもこの学校に「どんな部活

があるのかを知らない」という学生も多かったです。そこで、SNSを使った広報活動や、学校に部員募集のチラシを掲示したり、部員勧誘活動でたくさんの方に声をかけたり、部活見学の場を設けたりしました。そこでは、部を運営する中で友人や先輩、先生方、学校関係者の方々に支えられ、円滑に部を進めることができています。私一人の力では出来なかったことを、皆さんの協力により成し遂げることができていますので、感謝の気持ちしかありません。

大学生活において部活動に費やす時間は、出合いの場だと考えます。学科やコースなどが異なる違う学びをしている学生が一つの場所に集まり、言葉を交わします。そのような場は大学でしか味わえない貴重な時間だと感じます。なので、より有意義なものであってほしいという思いが伝わるような、そんな部活動を運営できていたら嬉しいなと感じております。今後とも演劇部、文化会をよろしくお願

いいたします。

「体育会」



国際教養学科三年

勝 又 優 希

日本大学国際関係学部に入部し、女子バレーボール部としての活動も一年半が経ちました。私が入学した際には、存在しなかった女子バレーボール部ですが、バレーボールをしたいという仲間が集まり二〇二二年の春に創部し、活動を開始することが出来ました。創部当初は、人数が少なく満足のいく練習が出来ませんでした。しかし、勧誘活動などの広報を続けていったことで、バレーボールをしたいという多くの仲間が増え、現在では有意義な練習ができています。私たちは、入学当初は新型コロナウイルスの影響により、授

業はほとんどがオンライン授業
でした。それにより、大学の
友人が出来ず、入学前に想像し
ていたキャンパスライフとの違
いに困惑しました。悩みごとを
相談できる友人が学内にいない
というのは、とても不安なこと
でした。しかし、二年生になり
部活動を通して、多くの友人と
出会うことができました。バ
レーボールの話、大学の話につ
いてはもちろん、プライベート
についての話もたくさん出来る
友人に出会えて、毎日楽しい
キャンパスライフを送ることが
できています。

め合っています。

新型コロナウイルスにより、
最初の一年間は満足のいくキャ
ンパスライフは送れませんでした
ですが、部活動を通して新しい仲
間と出会えたことに感謝してい
ます。これからも、部活動を通
して多くのことを経験し、成長
していきたいと思っております。
どの部活動におかれましても、
一人ひとりがより良い活動
が出来ることを願っています。
今後とも、女子バレーボール部、
体育会をよろしく願っています。

「富桜祭」



国際教養学科三年

鈴木 智恵里

日本大学国際関係学部に入學
してから、最後の学生生活を謳

歌したいと思いついた富桜祭
実行委員会は、オンライン開催
を挟み、部員は十人にも満たな
い状況で、ほぼゼロからのス
タートでした。
しかし、昨年度はREBIIR
TIIというテーマのもと、まさ
にコロナ禍からの復活を遂げる
富桜祭を成功させ、先輩方は私
たちにとっても重要な土台を残し
てくれました。それを元に私た
ちは、昨年度の盛り上がりを超
える富桜祭をつくりあげること
を目標としています。そのため
に、新たな刺激を加えた企画を
練ったり、過去の企画を復活さ
せたりして、準備を進めていま
す。

張り裂けそうな時もありまし
た。組織の動かし方も分からず、
一人で抱え込むこともありまし
た。そんな時、新たに頼もしい
仲間が入部してくれて、私を元
気づけ、支えてくれたのです。
実現が難しく諦めそうになった
企画も、仲間と一緒に悩み、考
えてくれたおかげで、実現が可
能となりました。大学生という
最後の学生生活で、とても貴重
な体験をしていることを改めて
感じました。
第七十三回富桜祭のテーマ
は、「FLOWERS〜What's
your color?」です。この多くの色
で凍と咲く花のように、咲き
誇ってほしいという意味が込め
られています。新型コロナウイルス
により制度された日々か
ら、徐々に規制が緩和されてき
てはいますが、この期間を挟み、
時間だけではなく、挑戦する気
持ちや積極性すらも奪われてし
まったのではないかと考えま
す。そこで、この富桜祭の開催を
通して、一人ひとりが今の自分

に必要なものを見つめ直した
り、新たな出会いや発見をした
りして、自分だけの「色」を見
つけることができるように願っ
ています。
富桜祭開催に向けて、実行委
員会全体の士気を高め、誠心誠
意取り組んでまいりますので、
今後とも富桜祭実行委員会を何
卒よろしく願っています。



校友紹介

国際関係学部国際文化学科

昭和五十九年度卒業

福田 勝弘

一年時には書店通いを日課にした。インターネットもSNSもない当時、最も多くの情報が集まったのが書店だったからである。三島の中心街にあった文盛堂が行きつかなかった。多種多様な雑誌、自己啓発本、文学などを立ち読み。一年たった頃、運命の本と出会う。

沢木耕太郎氏のスポーツノンフィクション「敗れざる者たち」、清水町の下宿の一室でこの本を読み終えた時、私は「スポーツライターになる」と静かに決意した。十五歳からが続き続けた課題に答えを出せたのは、今から思うと執念以外の何ものでもない。

不思議なことに、時を同じくして別の面でも転機があった。クラスの親友Y君がクラ連の活

動に誘ってくれたのだ。一年間籍を置く中で、学友会の皆さんも含め個性豊かな人々との交流に恵まれ、多くのことを学んだ。

クラ連と学友会の部屋があった四号館二階での語らいから関係が深まり、私にとって生涯の友人も、人生の恩人も生まれている。顧みると、このわずか一年が私の重要なターニングポイントとなったことに気づく。

一方、夢に向かっての文章修業は地道に進めた。新聞を利用した独自の学習から始め、通信教育、三、四年時は東京・市ヶ谷の専門学校で夜間コースに週一回通った。この間のエピソードを一つだけ記しておこう。

朝日新聞に投稿が掲載された際、意外な方から祝福された。クラ連在籍時に少しだけ縁があった政治学のF先生で、十三号館の廊下でばったりお会いし掛けていただいた言葉は今でも鮮明に覚えている。「福田、投稿良かったぞ。見ている人間は見ていらず。」人生は頑張っ

ていれば誰かが必ず認めてくれることを、私はこの時初めて経験した。

卒業後、念願叶って東京スポーツ新聞社に入社。性風俗、レジャー、経済、社会、ゴルフ、ボクシング、プロレスなどの取材を担当。記者生活を通して人間の究極の表情や姿を目の当たりにし、世の中と時代の最先端の息吹を感じ、一流、超一流の人物の言動、パフォーマンス、空気に間近で触れたことが、私の人間としての血肉となっている。

五十八歳で、思い切って大学の清掃責任者に転職。十九歳で撮り当てた人生の原点は今でも大切にしている。四年前から始めた投稿は現在、六十九本。新聞記者時代よりも書きたいことを書いている。幸いなことに十数本が新聞に掲載された。

東洋の英知の言葉に「良き人々と交わることが修業のすべてである」とある。今年一月に還暦を迎え、いよいよハツラツと楽しく人の輪を広げ、自己完成に励んでいきたいと考えている。



令和4年度 事業報告

1 国際関係学部校友会会長賞等授与

令和4年度日本大学国際関係学部在学学生から、次の者が国際関係学部長から推薦された。

- ・校友会会長賞（副賞：奨励金）は、国際関係学部3名に贈られ、令和5年3月25日予定の学位記伝達式が新型コロナウイルスの影響で卒業式に変更となり、同年3月26日学部にての授与となった為賞状並びに奨励金を本人宛に送付した。
- ・校友会優秀賞（副賞：奨励金）は、国際関係学部2名に贈られ、令和5年3月25日予定の学位記伝達式が新型コロナウイルスの影響で卒業式に変更となり、同年3月26日学部にての授与となった為賞状並びに奨励金を本人宛に送付した。
- ・校友会優秀賞（副賞：奨学金）は、国際関係学部3名に贈られ、令和5年3月26日校舎13号館1階ホールにおいて授与を予定したが新型コロナウイルスの影響で中止となり賞状並びに奨学金を本人宛に送付した。

①校友会会長賞（副賞：奨励金）

（国際総合政策学科4年）横田 桜 （国際教養学科4年） 山本 岳都

（国際総合政策学科4年）北村 洸

②校友会優秀賞（副賞：奨励金）

（国際総合政策学科4年）竹内 伸子 （国際総合政策学科4年）古川 龍之介

③校友会優秀賞（副賞：奨学金）

（国際総合政策学科3年）杉浦 悠太 （国際総合政策学科3年）出利葉 太一郎

（国際教養学科1年）市村 杏

1 メタルクラフト

1,000個を製作し令和4年4月大学院及び国際関係学部並びに短期大学部(三島)各学科の新入生全員に対して入学祝として渡した。

1 会報発行

会報53号を令和4年10月22日付け26頁 22,300部を発行した。

1 各事業に対する補助

①国際同窓会・桜栄会及び山形県支部に対する補助

②大学の体育会・文化会に対する補助

1 常任幹事会

令和4年6月4日(土)16時30分から、国際関係学部本校舎 校舎15号館1階1512教室において開催した。

1 幹事会

令和4年6月4日(土)17時30分から、国際関係学部本校舎 校舎15号館1階1512教室において開催した。

1 総会並びに懇親会

令和4年7月2日(土)15時30分から、みしまプラザホテルにおいて開催する予定であったが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

1 国際校友会公式WEBサイト更新

令和4年4月から公式WEBサイト（ホームページ）に年間11回に渡り校友会行事を写真集として更新した。

1 富桜祭物産展参加

令和4年10月29日(土)10月30日(日)両日に開催された第72回富桜祭の10月30日に校舎15号館1階スタディエリアの一部を使用して校友会主催による地元特産物等の販売を開催した。

1 ホームカミングデー開催

令和4年8月15日(木)16時から20時まで佐藤塾(本町交差点)にて日大三島高校同窓会三島支部との共催による『三嶋大祭りバージョン』と称して開催を予定したが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

1 銀杏並木歩道清掃作業

本校舎西側(県道21号線)歩道両側の清掃作業を実施した。ボランティア活動の一環として毎月第4日曜日の午前9時から約1時間、銀杏並木南側歩道橋附近から北側幸原町交差点までの両側歩道植え込み清掃を実施した。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため本年度は4月24日を第1回目として11回実施し、参加者は校友会会員に加え日大三島高校生徒会延146名が参加した。

1 三島学園開設75周年記念事業

令和3年度に引き続き、今年度については校舎15号館南側に時計塔を令和4年6月25日に設置完了した。国際関係学部へ寄贈いたしました。記念式典の開催については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

令和4年度 収支決算書 (平成4年4月1日～令和5年3月31日) (単位:円)

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	項 目	予 算 額	決 算 額	差 額
奨 学 費	390,000	300,000	90,000	会 費 収 入	16,520,000	12,718,000	3,802,000
校 友 会 報 発 行 費	900,000	1,193,500	△ 293,500	雑 収 入	780,000	24,688	755,312
各 科 同 窓 会 等 補 助	300,000	150,000	150,000				
学 生 団 体 補 助	800,000	211,300	588,700				
総 会 並 び に 懇 親 会 費	1,000,000	0	1,000,000				
箱 根 駅 伝 応 援 補 助	920,000	0	920,000				
本 部 校 友 会 会 費	470,000	470,000	0				
入 学 記 念 品 費	500,000	495,000	5,000				
卒 業 記 念 品 費	1,500,000	2,246,750	△ 746,750				
会 議 会 合 費	300,000	123,560	176,440				
通 信 運 搬 費	2,200,000	2,545,895	△ 345,895				
ホ ー ム ペ ー ジ 運 営 費	400,000	404,800	△ 4,800				
事 務 費	1,400,000	1,139,738	260,262				
会 員 名 簿 作 成 費	100,000	60,775	39,225				
就 職 合 同 面 接 会 運 営 費	0	0	0				
日 本 大 学 130 周 年 記 念 寄 付 金	100,000	100,000	0				
雑 費	900,000	332,155	567,845				
国 際 関 係 学 部 校 友 会 奨 学 金 支 援 基 金	250,000	250,000	0				
予 備 費	300,000	2,034,450	△ 1,734,450				
計	12,730,000	12,057,923	672,077	計	17,300,000	12,742,688	4,557,312
基 金 繰 入 額	500,000	400,000	100,000	基 金 繰 出 額	0	1,980,000	△ 1,980,000
次 年 度 繰 越 金	46,465,389	44,660,154	1,805,235	前 年 度 繰 越 金	42,395,389	42,395,389	0
(繰越金)	46,465,389	44,660,154					
支 出 の 部 合 計	59,695,389	57,118,077	2,577,312	収 入 の 部 合 計	59,695,389	57,118,077	2,577,312

貸借対照表 (令和4年3月31日現在) (単位:円)

借 方		貸 方	
項 目	金 額	項 目	金 額
普 通 預 金	59,660,154	基 金	19,360,000
定 期 預 金	4,360,000	前 年 度 繰 越 金	20,940,000
		本 年 度 繰 入 額	400,000
		本 年 度 繰 出 額	△ 1,980,000
		次 年 度 繰 越 金	44,660,154
		繰 越 金	44,660,154
合 計	64,020,154	合 計	64,020,154

基金の内訳 (単位:円)

項 目	前 年 度 繰 越 額	本 年 度 繰 入 額	本 年 度 繰 出 額	基 金 振 替 額	合 計
基 金	20,940,000	400,000	1,980,000	0	19,360,000
日 本 大 学 創 立 150 周 年 記 念 事 業 基 金 準 備 金	6,980,000	100,000	0	0	7,080,000
国 際 関 係 学 部 創 立 50 周 年 記 念 事 業 基 金 準 備 金	6,980,000	100,000	0	0	7,080,000
三 島 学 園 開 設 75 周 年 記 念 事 業 基 金 準 備 金	6,980,000	0	1,980,000	△ 5,000,000	0
国 際 関 係 学 部 校 友 会 35 周 年 記 念 事 業 基 金 準 備 金	0	200,000	0	5,000,000	5,200,000
計	20,940,000	400,000	1,980,000	0	19,360,000

令和4年度収支について関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしましたが、記帳その他正確であることを認めます。

令和5年5月15日

会計監査 木村 貴美和 ㊟
 会計監査 藤本 文彦 ㊟

令和5年度 事業計画

1 国際関係学部校友会会長賞等授与（副賞：奨励金もしくは奨学金）

日本大学国際関係学部及び短期大学部（三島校舎）令和6年3月卒業・4月進級の予定者を対象とする。

・校友会会長賞並びに奨励金	国際関係学部	4年卒業予定者	3名
・校友会優秀賞並びに奨励金	国際関係学部	4年卒業予定者	4名
	短期大学部（専攻科含む）	2年卒業予定者	2名
・校友会優秀賞並びに奨学金	国際関係学部	2・3年在学生	4名
	短期大学部（専攻科含む）	1年在学生	2名

1 メタルクラフト

800個を製作し令和5年4月大学院及び国際関係学部並びに短期大学部（三島校舎）各学科及び専攻科の新入生全員に対して入学祝として渡す。

1 会報発行

会報54号（令和5年10月20日付）24頁 22,500部発行予定。

1 各事業に対する補助

①各科同窓会及び支部に対する補助

②大学体育会・文化会に対する補助

③箱根駅伝応援に対する補助

1 常任幹事会

令和5年6月10日（土）16時30分から、国際関係学部本校舎 校舎15号館において開催する。

1 幹事会

令和5年6月10日（土）17時30分から、国際関係学部本校舎 校舎15号館において開催する。

1 総会並びに懇親会

令和5年7月1日（土）16時30分から、みしまプラザホテルにおいて開催する。

1 国際校友会公式WEBサイト更新

年間行事を写真集として更新する。

1 富桜祭物産展参加

令和5年10月28日（土）・29日（日）に開催される第73回富桜祭期間の28日（土）校舎15号館1階スタディエリアの一部を使用して10時から16時まで校友会主催による地元特産物等の販売に参加する。

1 ホームカミングデー開催

令和5年8月15日（火）16時から20時まで佐藤塾（本町交差点）にて日大三島高校同窓会三島支部との共催による「三嶋大祭りバージョン」を国際関係学部・短期大学部（三島）卒業生及び日大三島高校卒業生並びに法・文理・経済・商学部移行生を対象として開催する。

令和5年10月28日（土）11時から15時まで校舎15号館2階EVホールにて国際関係学部・短期大学部（三島）卒業生及び法・文理・経済・商学部移行生を対象とした学園訪問懇談会を開催する。

1 箱根駅伝応援

令和6年1月3日（水）復路スタート応援地点で応援する。また、令和6年1月2日（火）往路ゴール応援地点及び令和6年1月3日（水）復路スタート応援地点で国際関係学部チアリーディング部・文化会所属吹奏楽部の学生が応援に参加する。

1 銀杏並木歩道清掃作業

ボランティア活動の一環として、本校舎西側（県道21号線）歩道両側の清掃作業を実施する。

実施日は毎月第4日曜日午前9時から約1時間とする。

令和5年度 収支予算書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日) (単位:円)

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額	項 目	本年度予算額	前年度予算額	差 額
奨 学 費	390,000	390,000	0	会 費 収 入	15,756,000	16,520,000	△ 764,000
校友会報発行費	1,000,000	900,000	100,000	雑 収 入	780,000	780,000	0
各科支部等補助	300,000	300,000	0				
学生団体補助	800,000	800,000	0				
総会並びに懇親費	1,000,000	1,000,000	0				
箱根駅伝応援等補助	920,000	920,000	0				
本部校友会会費	470,000	470,000	0				
入学記念品費	500,000	500,000	0				
卒業記念品費	2,300,000	1,500,000	800,000				
会議会合費	300,000	300,000	0				
通信運搬費	2,300,000	2,200,000	100,000				
ホームページ運営費	400,000	400,000	0				
事務費	1,200,000	1,400,000	△ 200,000				
会員名簿作成管理費	100,000	100,000	0				
就職合同面接会運営費	0	0	0				
日本大学130周年記念寄付金	0	100,000	△ 100,000				
雑 費	900,000	900,000	0				
国際関係学部校友会奨学金支援基金	250,000	250,000	0				
予 備 費	300,000	300,000	0				
計	13,430,000	12,730,000	700,000	計	16,536,000	17,300,000	△ 764,000
基金繰入額	400,000	500,000	△ 100,000	基金繰出額	0	0	0
次年度繰越金	47,366,154	46,465,389	900,765	前年度繰越金	44,660,154	42,395,389	2,264,765
(繰越金)	47,366,154	46,465,389					
支出の部合計	61,196,154	59,695,389	1,500,765	収入の部合計	61,196,154	59,695,389	1,500,765

基 金 の 内 訳

(単位:円)

項 目	前年度繰越額	本年度繰入額	本年度繰出額	基金振替額	合 計
基 金	19,360,000	400,000	0	0	19,760,000
日本大学創立150周年記念事業基金準備金	7,080,000	100,000	0	0	7,180,000
国際関係学部創立50周年記念事業基金準備金	7,080,000	100,000	0	0	7,180,000
国際関係学部校友会発足35周年事業基金準備金	5,200,000	200,000	0	0	5,400,000
計	19,360,000	400,000	0	0	19,760,000

国際関係学部校友会

年間会議報告

◎常任幹事会

令和五年六月十日(土)一六時三〇分から、国際関係学部本校舎一五号館一階一五二三教室において開催された。

横山雅人会長挨拶の後、会長進行により議事に移り、幹事会提案事項の内容について各担当者から詳細な内容説明があり検討審議された。

◎幹事会

令和五年六月十日(土)一七時三〇分から、常任幹事会に引き続いて幹事会が開催された。弓場重明副会長の司会で進行され、黙禱に引き続き横山雅人会長挨拶の後、議長団・書記の選出に移った。議長には多田清吾常任幹事、副議長には日吉智常任幹事、書記には深澤ほの香常任幹事、がそれぞれ選出され、次の議事が検討審議された。

- 一 令和四年度事業報告
- 一 令和四年度決算報告
- 一 監査報告
- 一 令和五年度事業計画(案)
- 一 令和五年度収支予算(案)
- 一 令和五年度新幹事に関する件
- 一 役員改選に関する件
- 一 富桜祭物産展実行委員に関する件
- 一 ホームカミングデー実行委員に関する件

- 一 令和五年度国際関係学部校友会総会・懇親会に関する件
- 一 国際関係学部校友会関係物故者について

一 校友会会報(第五十四号)原稿依頼について

一 その他 令和四年度銀杏並木清掃参加者について

田中由雄幹事長から、令和四年度事業報告引き続き塩谷典子会計担当から令和四年度決算報告が報告され藤本文彦会計監査から監査報告あり、それぞれ承認された。続いて令和五年度事業計画(案)については田中由雄幹事長から令和五年度収支予算(案)については塩谷典子会計担当から提案説明がなされ、審議の結果二案とも承認された。令和五年度新幹事等に関する件については、国際関係学部八名、ビジネス情報学科二名、食物栄養学科三名の推薦をした旨が事務局から提案され承認された。田中由雄幹事長から現役員改選に関する件については

は役員の任期が令和六年三月三十一日付で満了となるが次期役員について新規して頂きたい。富桜祭物産展実行委員並びにホームカミングデー実行委員に関する件については昨年度に引き続きお願いしたい。次に令和五年度国際関係学部校友会総会・懇親会については、日時 令和五年七月二日土曜日十五時三十分から場所 しましまプラザホテルにおいて開催される

旨報告がなされた。国際関係学部校友会関係物故者については令和四年七月から令和五年六月までに事務局に逝去の連絡が有った方二十名を一覧にしました。会報(第五十四号)原稿依頼者は横山会長、渡邊学部長、齊藤事務局長、山田副会長、田代常任幹事、鈴木山形県支部幹事長、学生表彰者三名、各学生団委員長三名、桜栄会・食物栄養学科の方々にお願した。その他として令和四年度銀杏並木清掃参加者名簿を添付したので、ご覧いただきたい。

◎総会

令和五年七月一日(土)十五時三十分からしましまプラザホテルにおいて開催された。弓場重明副会長の司会で昨年の総会後から本年六月末日までに逝去された会員に対し黙禱をささげ、続いて山田浩子副会長の開会が伝えられ進行された。横山雅人会長の挨拶の後議事に移り、議長団・書記選出となった。議長には田代常任幹事、副議長には勝又勇旭常任幹事、書記には高梨いづみ幹事が選出され、次の議事が報告及び審議された。

- 一 令和四年度事業報告
- 一 令和四年度決算報告
- 一 監査報告
- 一 令和五年度事業計画(案)
- 一 令和五年度収支予算(案)

- 一 令和五年度新幹事に関する件
- 一 次期役員改選に関する件
- 一 国際関係学部校友会関係物故者について

一 各科同窓会活動報告

一 その他

田中由雄幹事長から令和四年度事業報告がなされ、続いて令和四年度決算報告が塩谷典子会計担当から報告、藤本文彦会計監査から監査報告があり、それぞれ承認された。決算額で差異が増額となった校友会報発行費は印刷用紙の値上がり、卒業記念品費は本部調達から学部調達に変更、通信運搬費は宅配料金値上げによるものです。令和五年度事業計画(案)に関する件は田中由雄幹事長から、令和五年度収支予算(案)に関する件は塩谷典子会計担当から内容説明がなされた。審議の結果、原案どおり承認され、二案について案の削除となった。続いて令和五年度新幹事等に関する件として

国際関係学部同窓会から客野祐太郎以下八名、商経科同窓会から坂本隼祐以下二名、桜栄会から島崎真白衣か三名を幹事として推薦したい旨が事務局から提案があり承認された。役員改選に関する件については田中由雄幹事長から現役員の任期が令和六年三月三十一日付で満了となる

きたい旨の提案がなされ審議の結果現役員の再任となった。任期は令和六年四月一日から令和九年三月三十一日までとする。国際関係学部校友会関係物故者については田中由雄幹事長から令和四年七月から令和五年六月末日までに事務局宛に連絡が届いた坂詰正衛以下二十日名の会員の方がご逝去なされた旨の報告がされた。各科同窓会活動報告については報告事項なし。平澤佳代子副会長の閉会のことばで総会は終了した。

総会終了後懇親会が開催された。田中由雄幹事長の司会で進行され、鈴木允常任幹事の指揮により校歌斉唱に始まり横山雅人国際関係学部校友会会長挨拶の後、来賓挨拶として酒井健夫日本大学学長並びに渡邊武一郎国際関係学部長の祝辞があった。昨年の叙勲で瑞宝中綬章された日本大学名誉教示佐藤三武朗様に花束の贈呈がなされた。来賓紹介の後、齊藤聡国際関係学部事務局長による乾杯のご発声で懇談に移った。本年三月実施された市町村議員選挙で本会員七名が当選し紹介された。次に抽選会に移り商品が当たるたびに歓声が上がった。江本博勝副会長により中締めのことばで閉会となった。



国際関係学部校友会総会

校友会事務局からのお知らせ

◎銀杏並木清掃作業

毎月第四日曜日午前九時から
約一時間程度
本校舎西側道路（県道二十一
号線）両側

◎富桜祭 物産展

日時 十月二十八日（土）
十時～十六時

場所 校舎十五号館一階
スタディエリアの一部
販売品目
野菜、果物、海産物
ジャム、ジュース

◎ホームカミングデー

日時 十月二十八日（土）
十時～十六時

場所 校舎十五号館二階
E Vホールの一部

校友の皆様方のご参加並びに十一月以降の行事内容については国際校友会ホームページに詳細はご案内致しますのでご覧ください。

◎校友会会報投稿者募集

国際関係学部校友会では「会報」に掲載する卒業生でお店・会社の経営者地元で話題、ユニークな活動を行っている方など自薦他薦は問いません。ご存じでしたら下記事務局までご連絡ください。

静岡県三島市文教町

二一三一一四五

日本大学国際関係学部内
日本大学国際関係学部校友会

事務局

TEL・FAX

〇五五一九八〇一〇八二〇

同窓会だより

国際関係学部同窓会

例年十月上旬に開催されます国際関係学部同窓会総会並びに懇親会ですが令和二年度から続く新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み令和五年度も中止とさせていただきます。

● 役員名簿

会長	横山雅人（国際）			
副会長	宮下公雄（国際）	濱田義之（学部）	山田浩子（桜文）	江本博勝（商経）
	平澤佳代子（桜栄）	弓場重明（工）		
幹事長	田中由雄（商経）			
常任幹事	関野浩二（国際） <small>（庶務担当）</small>	塩谷典子（国際） <small>（会計担当）</small>	染谷徳昭（商経）	平岩美知（桜文）
	久保田博明（商経）	遠藤晶子（桜栄）	早川清文（工）	西野和衛子（商経）
	瀬川 宏（工）	神戸絹代（桜栄）	多田清吾代（商経）	鈴木 允（学部）
	田代 稔（商経）	諏訪部昭子（桜文）	斎藤千鶴子（桜文）	露木ひろみ（工）
	押見恵美子（桜栄）	松原裕二（国際）	勝亦幾代（桜文）	西田昭子（桜栄）
	高野 誠（国際）	勝又義博（国際）	久保田裕子（桜栄）	藤澤博隆（商経）
	山瀬 匠（商経）	渡邊孝哉（桜文）	勝又勇旭（国際）	深澤ほの香（国際）
	日吉 智（商経）	藤本文彦（工） <small>（会計監査）</small>	木村貴美和（国際） <small>（会計監査）</small>	
顧問	柴田 正（工）	小早川隆義（商経）	野中美香（桜栄）	

公式WEBサイト



URL <http://www.nu-ir-koyukai.jp/>



校友会HP
QRコード

「桜栄会会員の皆様へ」



桜栄会会長
平澤 佳代子

新型コロナウイルス感染症が五類へ移行し日常を取り戻しつつある中、桜栄会会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。なかなか感染症はすっきりと収まることをよしとしてくれず、冬の代名詞のインフルエンザも一足早く悪さをしている状況に、マスクが手放せない方も多いのではないのでしょうか。

ウエルネスという言葉が耳にすることがあります。この言葉は、アメリカの医師ハルバー・ダン氏が一九六一年に、「輝くように生き生きしている状態」と提唱したことから始まりました。毎日をよりよく生きるための健康維持・増進に向けた生活態度全般を指し、「健康」をより広く捉えた概念で、今までに世界中の研究者がさま

ざまな解釈をしてきました。私の住む三島市では、この考え方を街づくりに取り入れています。それが「スマートウエルネスシティ」です。この「ウエルネス」は「健康」と「幸福」の頭文字をとって「健幸（けんこう）」と名付けられています。

「人々が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むことのできることをこれからの「まちづくり政策」の中核に捉え、市民誰もが参加し、生活習慣病予防及び寝たきり予防を可能とするまちづくりを目指しています。自分の健康は自分で守ることが大切です。しかし中々、自分のことだと「忙しいから」「時間が取れないから」などと後回しにすることが多くなりがちです。そういう私も、そのうちの一人ですが。そのような方へのアプローチを後押しする仕掛けをしていくのがこの政策になります。「セレンディピティ」なまちづくりや、「ウォーカーブル」なまちづくりもその一環です。市民ではないから関係ないと思わず、家政学を学ばれた桜栄会会員の皆様には、是非「健幸」を目指していただきたいと思います。各自の居場所

で、できることから始めよう。合言葉に「ウエルネス」を極めてみませんか。

世界保健機関（WHO）でも、「健康」の定義として「肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」としています。このことからウエルネスは、病気の有無だけでなく、生活の質（Quality of Life）が高い状態にあるということが求められます。肉体的にも精神的にも健康で、生き生きとした生活を送るための目的や手段として、ウエルネスが注目されています。家族の超高齢化に対応する為にも、幅広い年代で意識すべきものです。

この一年は、「自分の健康は自分で守る」その為には何が必要なのか、何をすべきか、衣食住を含めて行動に移す時ではないでしょうか。

既に始めている、もう生活の一部になっていく方は、持続し続ける豊かな時をお過ごしください。皆様の「健康を祈念し、ご挨拶と致します。

「生成AIの台頭」



日本大学短期大学部
食物栄養学科教授 学科長
高橋 敦彦

校友会、桜栄会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。最近ではほとんど報道される機会が減りましたが、経済活動の活性化、インバウンドの増加に伴い新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの感染症が流行してしています。大学での授業、実習、学校行事はコロナ禍前のように対面形式で行っております。校外実習は、数多くの施設から学生の受け入れを許され、貴重な実習の機会をいただけておりますことをこの場を借りて御礼申し上げます。

昨今話題のキーワードといえ、生成AI（Generative Artificial Intelligence）があげられると思います。人間を遙かに凌ぐスピードとボリュームでビジネスシーン、研究、医療などで、テキスト、プログラム、画像、音楽などのコンテンツを

生み出す生成AIの台頭は教育現場にも多かれ少なかれ影響を与えています。最近なところは入学試験の小論文、学生に課せられているレポート、課題などは、テーマや問題が十分に練られていないと生成AIが簡単に解答を作成してしまいます。こうしたことを書きますと「生成AIは教育の場には好ましくない」、「学生が生成AIを使うことはけしからん」という議論になってしまいかもしれません。が、実は私はChat GPTが使用できるようになって以来、生成AIを種々の場面で利用しています。様々な事象のデータマイニングはもとより、時間があるときは雑談にも応じてくれますので、もはや同僚、相棒、秘書といった存在です。

あくまでも私見ですが、生成AIを使用して簡単に答えが得られるような問題や課題を与えること自体が好ましくないことで、学生には自ら考えて考えて考え尽くさなければ答えが得られないようなテーマ、課題を与えるべきなのです。むしろこれから、生成AIを使いこなす技術を身に付けることが大切だと思います。生成AIを使用している方に説明は不要と思いますが、生成AIを上手に使うためには、如何に「プロンプト」と呼ばれ

る命令(質問書)を明確に書けるかが重要です。試しに生成AIに生成AI使用の利点、欠点、注意点を箇条書きさせてみます。

【利点】①効率性と生産性の向上…AIは、人間が行うのに時間がかかるタスクを高速に実行できます。これにより、生産性が向上し、ビジネスの効率性が大幅に向上します。②24時間365日の可用性…AIシステムは休憩や休暇を必要とせず、一日中利用可能です。③エラーの削減…AIは正確さと精度を提供し、特に高度な計算やデータ処理において人間のエラーを削減します。

【欠点】①雇用の影響…AIが仕事を自動化すると、一部の職種では雇用の機会が減少する可能性があります。②高い初期投資…AIシステムの開発と導入には高額な費用がかかります。③感情の欠如…AIは複雑な人間の感情を理解する能力を持っていません。これは、顧客サービスなどの分野で問題を引き起こす可能性があります。【注意点】①データプライバシー…AIシステムは大量のデータを処理し、これには個人情報が含まれる場合があります。したがって、データプライバシーとセキュリティには十分注意が必要です。②倫理的な問題

…AIの使用は、プライバシー、バイアス、不平等などの倫理的な問題を引き起こす可能性があります。これらの問題を適切に管理するためのガイドラインと規制が必要です。③依存性…AIへの過度な依存は、技術的な問題が発生した場合やAIが予期しない結果をもたらした場合に問題を引き起こす可能性があります。したがって、AIの使用は適切にバランスを取ることが重要です。(以上、Bingチャットから引用)

さて、学内で学科運営にあたってまいりますと視野が狭くなってまいります。どうかOGBの皆様方の忌憚のないご意見をお聴かせください。皆様のご健康を祈念申し上げます。

「教育」「研究」 「社会への発信」



日本大学短期大学部
食物栄養学科教授

太田尚子

私が本学にお世話になり既に二十八年になります。

桜栄会の原稿に寄稿させていただくのは二度目かと記憶しています。

本日は自由に書いて構わないとの田中様からのお話ですので、教員として、また一人の研究者として普段考えていることを記したいと思います。

私は子供の頃からとても不器用な人で、色々なハードルをひたすらコツコツと努力して乗り越えてきたように思いますが、ご縁あって、本学に赴任させていただくことができました。私は学生時代、家政学部の食物学科に所属し、学部及び大学院と食品成分の加工について、脂質とタンパク質を中心に勉強しました。

本学に赴任が決まった時、あの先生から、「授業はお経じゃないから、研究を続けることが重要だ」と言われたことを今でも鮮明に覚えています。「教育」は、私自身が教員免許を取得した際の教育実習や、最初の赴任大学が「教育大学」であったことから、わかりやすい授業や板書を心がけましたが、日大のような大規模な授業には慣れておらず戸惑ったことを思い出します。

「研究」は、一貫して実験系で進んできていましたが、元々怖がりの性格で、中々新しい

テーマに着手する勇氣が出てこないタイプでしたが、振り返れば実験が好きになった契機は、高校一年生の「化学」の授業にあります。当時お世話になった先生は、生徒に理解できた時の喜びを実感させて下さる先生でした。毎週のように土曜日の午後は先生のおられる理科準備室で、その週、理解できなかった事を質問し教えていただきました。

最近の私はやはり「教育」や「研究」に苦しんでいます。その成果を正しく社会に発信して伝えたいと日々取り組んでいます。今年の夏は三年ぶりに対面での学会が多数開催され、忙しい夏を過ごすこととなりました。国内の学会、海外の学会、シンポジウムなど、私自身が口頭発表をしたり、ポスター発表をしたり、会の座長をしたり、ゼミに所属中の学生が自身で口頭発表をしたりと盛沢山でした。会が終わってホッとしたときいつも思うことがあります。「世の中には頑張っている研究者が本当にたくさんおられるな」と学内で過ごしている日々だけでは、世の中の進みについていけなくなってしまうと真に思うところです。

最後にこのメッセージを読んでいたという桜栄会の方々

にお願いしたいことがあります。どうぞお時間がありましたら在学生に刺激を与えに時折本学にお越しいただけませんか？末永くどうぞよろしくお願ひ致します。

「日々努力、日々前進」



専攻科

船山麗華

私は、幼少期から食べることに大好きで、食に興味・関心があったことから、食に関して幅広く学べる日本大学短期大学部食物栄養学科に入学しました。栄養に関する座学も私自身、興味がある内容であったため面白く、味が多かつた印象ですが、特に実験や調理実習は、レポート課題こそ大変ではありましたが、クラスメイトと共に協力しながら実際に手を動かして学んでいくので、大変面白かつた印象が残っています。

その後、更に深く学び、学士取得を目指したいという想いか

ら、同大学の専攻科食物栄養専攻に進学しました。深掘りした専門的な知識を学びつつ、ゼミナール活動も開始し、授業・課題・研究活動に没頭し、充実した日々を過ごしました。

学んでいく中で、特に機能性を持った食品などに興味を持つこと、また、かねてより大学院進学への希望があったことから、専攻科一年時に研究室訪問を行って研究室を吟味し、結果として希望としていた県内の大学院へ進学しました。大学院在学時には、通常廃棄される鮭の鼻軟骨から抽出したプロテオグリカンの皮膚に関する研究を行いました。慣れない環境下での、大学時代とは異なる専門分野、初めて行う実験手法が多々あり、毎日が勉強で大変なことも多かったのですが、同研究室の友達や先生のお力添えもあり、研究活動に没頭し、楽しく充実した日々を過ごしました。

そんな中、就職活動の時期に差し掛かりました。大学院に進学したことで、選択肢は広がりましたが、長く勤めていくのであれば、やはり自分自身が興味のある仕事に就きたいと考えるようになりました。つまり、食品に関する企業に勤めたいという想いが強く、結果として、株式会社ナチュラルキッチンの商

品開発部に現在は所属しています。弊社の主な事業内容と致しましては、青汁やプロテインなどの健康飲料のOEM事業です。私は青汁やプロテインに関する知識は浅くかつ未熟者であること、更には商品開発部は最近できた部署であることから、毎日が勉強ではありますが、試作をしながらより良い製品を作り上げていくことは、大変やり甲斐があると感じています。

そして最近、ご縁があり、私の母校である日本大学短期大学部食物栄養学科のクラブ活動の一環であるプロジェクトMと、現在私が勤めている会社との共同開発プロジェクトが行われています。プロテインを日大生にもっと身近に感じてもらえるようなレシピを学生さんに提案してもらい、弊社はその後ろ支えができるよう、サポートをしていきたいと思っています。未来ある学生さんたちの熱量に負けぬよう、そして私も成長できるような社会人になったこれからも日々努力し続けていきたいと思っています。



「私の好きなことは「食」を食べること」 人のために作ること」



食物栄養学科
大石 麻衣里

の二出席をきちんと守り、休める回数はきちんと休み、授業中は居眠りと実験実習のレポート作成、次に行くライブの計画や旅行の計画を立てたりと、いかに学生生活を楽しむかを念頭に日々を過ごしていた覚えがあります。また石川ゼミに所属し、友人と共同で行った卒業研究も提出の三分前まで修正をしました。

そんな不真面目なわたしは、予定通り短期大学部食物栄養学科を無事二年で卒業し、三年の実務経験を経て、国家試験へ二度挑戦をし、管理栄養士を取得いたしました。どう勉強していたの？と聞かれることが多いのですが、至ってシンプルです。仕事前に三十分〜一時間早起きをして時間を確保、仕事終わりに一〜二時間。勉強内容は、ひたすら授業を思い出す：ってあれ？わたしちゃんと授業受けていたつけ：ノートを見返すと、ライブや旅行の計画や、バイトの給料計算などの落書きで埋められていました。これでは駄目だと思い、篠原先生が開催している対策講座へ参加し、過去問・参考書の問題を黙々と解き、学生時代勉強したであろう教科書を一から読み直しました。意

外にも、あんなに学生時代は勉強が苦手だったのに、この期間には楽しく勉強できたことが自分の中での驚きポイントです。そんなこんなでなんとか合格し、管理栄養士として仕事をしています。一般的な栄養計算、献立作成、レシピ作成から、料理&食育教室（大人も子どもも）、スポーツ学生寮の調理業務、スマートミール取得のお手伝い、アスリートの栄養指導、栄養講座の開催等の幅広い業務を行っております。また二〇二二年四月より実家で経営しているサーフショップにキッチンを付け、カフェもどきの運営もスタートしました。

わたしは「楽しい・美味しい・感謝の気持ち」です。何事も楽しく、美味しいものをいっぱい食べて幸せを感じ、関わってくださる様々な方への感謝の気持ちを持って日々を過ごすことを念頭においております。好きなことが仕事に係しているいま、わたしの毎日にとってはとってもハッピーです。

桜栄会の皆様へ

桜栄会の皆様には、日頃から食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻の教育活動にご理解とご協力を賜わり、心から感謝申し上げます。

さて、今日少子化が進む中、大学への進学希望者は年々減少し、特に短期大学への進学者数は目に見えて減ってきており、本学科も、大変厳しい状況が続いております。幸いにも本学科は、専攻科を開設し、四年制大学と同等の教育や学士（栄養学）の取得、さらに大学院への進学も可能であり、一定の教育水準を維持しています。歴史と伝統を有する本学科の維持・発展を期して、日々の教育・指導に一層努めてまいりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。なお、栄養士資格の取得を希望される受験生や社会人の受験生がおられましたら本学をご案内いただければ幸いです。管理栄養士を目指す学生の専攻科進学を勧めておりますが、近年では社会人になられた卒業生も、専門的知識や技術を習得し、管理栄養士を目指して本学専攻科に入学されています。また、平成二十三年度より、管理栄養士国家試験対策室を立ち上げ、サポート体制を整備し、合格者を増やしています。なお、下記製菓衛生師コースは他校に比べ安価（一年間十五万円、二年間で国家試験受験資格取得）ですが、しっかりとした指導体制で毎年多くの学生が国家試験に合格しています。これは通信制ですので、大学へは、年二回のスクーリングのみの参加です。卒業生の方もチャレンジしてみたいかがでしょうか。

管理栄養士国家試験対策講座からのお知らせ

管理栄養士国家試験は例年二月末か三月一週目に行われます。昨年（三十七回）の試験は専攻科十五名・短大四十二名が受験しています。勉強の仕方は皆違うと思いますが卒業後も仕事と並行しながら目標に向かって皆さんが頑張っていることを嬉しく思います。

本学の対策講座は、コロナ禍以降Zoomを利用し、参加申し込み状況見ながら八月から週一回六十分程度、送付した資料を使って頻出事項の解説を行っています。また講座にあわせて模試を大学単位で申し込み、苦手科目のアドバイスをします。

合格のためには、管理栄養士の資格を取って今後どうしたいのか明確にして具体的に決意表明すること。それから過去問題集一冊を少なくとも三回は解くことが大切です。問題集は色々でいるので使いやすいものを選ぶとよいです。受講を希望される方は模試注文の都合上五月の連休明けくらいまでに食物栄養学科研究室へお問い合わせください。試験まではぜひご参加ください。

学科で卒業生も取得できる資格

《製菓衛生師（国家試験受験資格）》

食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻では、茨城県にある「つくば栄養医療調理製菓専門学校」との連携で、製菓衛生師国家試験受験資格を取得できる通信教育課程を開設しております。製菓衛生師とは、製菓・製パン業務に就く際に取得していることが望ましい唯一の資格で、食に関する資格の中でも人気の高いものです。本学では、二年間の在学中に、通信学習（月一回の課題提出）、夏季と春季のスクーリング（各五日）および指導校研修（一日）により効率的に修得できます。毎年四月から開講します。

《介護職員初任者研修》

介護職員初任者研修は、旧ホームヘルパー二級に該当します。訪問介護員とも呼ばれ、高齢者や心身障害者などの身体の介護や家事サービスを提供し、自宅での自立を支援します。厚生労働省が指定する講座を修了することで修得でき、高齢化社会を迎えニーズの高い資格です。本講座はニチイ学館と連携した本学科単独の通信講座で、食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻を対象にカリキュラムを編成し、開講します。

「フードアナリスト」四級・三級

フードアナリストは、世界各国の食文化や食空間の演出法、テーブルマナーや食育など、「食」に関するあらゆる知識・教養を幅広く学び、食の事ならば何



を聞かれても解説できる、何を依頼されても執筆できる「食情報のスペシャリスト」を育成する為の資格です。幅広い知識を身に付けたフードアナリストは、様々な分野で活動し、その活躍が多くのメディアで注目されています。本学にて一日の受講（含む認定試験）で四級の資格が取得可能です。今年度は二月に開講予定です。また、四級の資格を取得した者は、三級受験資格があり、希望者が集まれば本学にて二日間の受講で取得可能です。

食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻 専任教員&助手紹介

〈専任教員〉

学科長 高橋 敦彦（病理学・疾病学）
教授 太田 尚子（食品学）
教授 上田 龍太郎（食品衛生学）
准教授 石川 元康
（情報処理演習・公衆衛生学）

准教授 篠原 啓子（栄養教育論）
准教授 葛城 裕美（調理学）
助教 難波 亜紀（栄養学）
助教 小山 ゆう（給食経営管理論）

〈助手〉

助手 青野 天海（専攻科・二十二期）
助手 長谷川和輝（専攻科・十八期）
助手 鈴木 麻友（専攻科・十七期）
助手 大石麻衣里（学科・五十六期）
助手 片山なつみ（専攻科・四期）

お問い合わせは、食物栄養学科研究室
TEL・・・〇五五―九八〇―〇八四〇
FAX・・・〇五五―九八〇―〇八四六
E-mail:takahashitsuhiko@nihon-u.ac.jp

日本大学国際関係学部校友会会則

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は日本大学国際関係学部校友会と称する。

(事務局)

第2条 本会は事務局を静岡県三島市文教町2丁目31番145号に置く。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第3条 本会は会員相互の親睦と融和をはかり母校の発展に寄与すると共に母校建学の理念を社会に拡充することを目的とする。

(事 業)

第4条 本会は前条目的達成のために次の事業を行う。

- 1 会報発行・会員名簿の作成
- 2 会員相互の親睦と融和をはかるための諸事業
- 3 母校の発展興隆に関する諸事業への協力参加
- 4 その他目的達成のために必要な諸事業

第3章 会 員

(会員構成)

第5条 本会は日本大学三島予科・三島教養部・文理学部三島・短期大学部（三島校舎）・専攻科食物栄養専攻・国際関係学部・大学院国際関係研究科の出身者および在籍した者による正会員と幹事会において本会に関係が深く功労があると認められた特別会員・名誉会員並びに準会員である国際関係学部・大学院国際関係研究科・短期大学部（三島校舎）の在學生をもって構成する。

- 2 特別会員・名誉会員並びに準会員は議決権は有しないものとする。

(会 費)

第6条 会員は規程の定めるところにより、会費を納入しなければならない。

- 2 会費及び徴収方法は別に定める。
- 3 特別会員・名誉会員は会費を徴収しないものとする。

第4章 役 員

(役員構成)

第7条 本会に次の役員を置く。

- 会 長 1名
- 副 会 長 若干名
- 幹 事 長 1名
- 常任幹事 若干名
- 幹 事 若干名
- 会計監査 2名

(顧問・参与)

第8条 本会は顧問・参与を置くことができる。

- 2 顧問・参与は幹事会の議を経て会長が委嘱する。

(役員を選出)

第9条 会長は会長・副会長会議で推薦され、総会にて承認を得るものとする。

- 2 副会長は国際関係学部校友会を構成する各同窓会会長或は在学した者の代表者とし会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
- 3 幹事長は常任幹事から会長が推薦し、常任幹事会に報告するものとする。
- 4 常任幹事は各科同窓会代表幹事とし、常任幹事から庶務担当・会計担当を幹事長が指名し、会長・副会長会議に報告するものとする。
- 5 幹事は国際関係学部校友会表彰者或は各科同窓会会長から推薦し、幹事会に報告するものとする。

(任 期)

第10条 各役員の任期は3年とし、再任は妨げない。ただし満80歳をもって定年とする。なお、期間は当該年度内とする。

- 2 欠員が生じたときは、必要に応じて補選し、その任期は前任者の残存期間とする。
- 3 任期満了した場合においても、後任者が就任するまでの間その職務を行う。

(役員職務)

第11条 会長は本会を代表し会務を総括する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
- 3 幹事長は事務を統括し、本会運営に必要な一切の事務事項を遂行する。
- 4 常任幹事は幹事の互選により選出し、常任幹事会を構成、本会業務の遂行にあたる。
- 5 幹事は幹事会を構成し、本会運営の諸事項の議決にあたる。
- 6 顧問・参与は本会の重要事項につき、会長の諮問に応ずるものとする。
なお、顧問・参与には役員に関する規定を準用する。

第5章 会 議

(会議及び議決方法)

第12条 本会の会議は、総会・会長、副会長会議・常任幹事会・幹事会の4種とする。

- 2 会議は会長が招集し、議長団はその都度選出する。
- 3 やむを得ない場合は、常任幹事会及び幹事会をもって総会に代ることができる。

(会議の構成及び開催)

第13条 本会は目的達成のため下記の機関を置く。

- 2 総会は本会運営上の諸事項についての報告を受けこれを承認する。
総会は年1回開催するものとし会長がこれを招集する。
- 3 常任幹事会は常任幹事以上の役員を以て構成し本会の執行機関として本会の実質的運営にあたる。常任幹事会は必要に応じて随時会長がこれを招集する。常任幹事3分の1以上の要求があった場合はこれを招集しなければならない。
- 4 幹事会は総会の代行機関として第14条の事項を付議し、これを議決する。
幹事会は年1回以上開催するものとし会長がこれを招集する。幹事3分の1以上の要求があった場合は臨時に招集しなければならない。
- 5 事務局は幹事長指示のもと会員相互の連絡及び各会議の議事の収録並びに運営に必要な一切の事務を行う。

(総会の審議)

第14条 総会は次の事項を審議し議決する。

- 2 会則及び重要規定の制定、改廃に関する事項。
- 3 事業計画に関する事項。
- 4 予算・決算に関する事項。
- 5 会長の選任に関する事項。
- 6 その他第4条に基づいて必要と認められた事項。

第6章 支 部

(支部の設置)

第15条 本会は円滑な発展と交流の促進のために支部を設けることができる。

- 2 支部の設置条件及び方法は別に定める。

第7章 会 計

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(経費)

第17条 本会の経費は、会費並びに寄付金その他の収入を以てこれを充てる。

(会計監査)

第18条 会計監査は本会会計及び財務について監査し、その結果を総会にて報告する。

第8章 会 則

(会則変更)

第19条 本会の会則の変更は総会の議を経てこれを決する。

(会則の遵守)

第20条 国際関係学部校友会は日本大学校友会会則及び支部規程を遵守しなければならない。

(施行細則)

第21条 この会則に必要な細則は会長・副会長会議及び常任幹事会の議決を経て会長がこれを施行する。

第9章 表 彰

(表彰)

第22条 本会の目的及び事業に貢献した者は幹事会の議を経て、これを賞することができる。

- 2 卒業予定者及び在学生に対する会長賞等の表彰規定は別に定める。

第10章 除 名

(会員除名)

第23条 会員が次の事項に該当した行為があったときは幹事会の議を経て除名することができる。

- 2 国際関係学部の名誉を傷つけ、また校友としての品位を害する言動があったとき。
- 3 校友会の秩序を乱したとき。
- 4 故意または重大な過失により校友会に損害を与えたとき。

付 則 本会則は平成23年8月1日より施行する。

日本大学校友会組織図

日本大学校友会(校友会本部事務局)

都道府県支部(65支部)

北海道ブロック(札幌・旭川・稚内・小樽・帯広・留萌・苫小牧・網走・釧路)
 東北ブロック(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)
 関東ブロック(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・川崎・山梨)
 東京ブロック(東京都第一・東京都第二・東京都第三・東京都第四・東京都第五・
 東京都第六・東京都第七)
 東海ブロック(岐阜・静岡・愛知・三重)
 北信越ブロック(新潟・富山・石川・福井・長野・長野北信)
 近畿ブロック(滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山)
 中国ブロック(鳥取・島根・岡山・広島・山口)
 四国ブロック(徳島・香川・愛媛・高知)
 九州ブロック(福岡・北九州・佐賀・長崎・佐世保・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄)

学部別部会(17部会)

法・文理・経済・商・芸術・国際関係・危機管理・スポーツ科・理工・生産工・工・医・歯・松戸歯・生物資源科・薬・通信

職域別部会(5部会)

全国桜師会・桜門会計人会・日本大学法曹会・全国桜門スポーツ部会・桜門社長会

桜門会(74団体)

海外特別支部(10支部)

韓国・ブラジル・ロサンゼルス・台湾・サンフランシスコ・スペイン・ニューヨーク・インドネシア・ミャンマー・バンクーバー

日本大学国際関係学部校友会組織図

国際関係学部校友会
(旧三島同窓会)

三島豫科
三島教養部
文理学部(三島)

短期大学部
桜文会(国文・英文)
商経科同窓会(1・2部・ビジネス教養)
桜栄会(栄養・家政・食栄・生活・専攻科)
工科同窓会(建築・機械)

国際関係学部同窓会